

JAPAN
ADVANCED
INSTITUTE
OF
SCIENCE
AND
TECHNOLOGY

大学概要 2026
北陸先端科学技術大学院大学

可能性をカタチにし、 未来を創る

北陸先端科学技術大学院大学は、先端科学技術分野における高度な基礎研究の推進と、大学や企業等で研究開発を担う高度専門人材の養成・再教育を目的として、1990年10月に創設されました。以来、学部を持たない国立大学院大学として、従来の大学の組織編制にとらわれない柔軟な教育研究体制を構築するとともに、多様なバックグラウンドを持つ教員・学生を受け入れ、世界最先端の研究とそれを通じた人材育成に取り組んできました。

2016年には、従来の3研究科を1研究科に統合し、2021年には、世界の持続的発展に貢献するイノベーション創出拠点を目指し、「JAIST 未来ビジョン」を策定しました。さらに、2026年4月には、その歩みを発展させるために『JAIST未来ビジョン BEYOND』を掲げ、多様な知と人材が集い、世界の知をつなぎ循環させる拠点として、独創的な研究と高度専門人材の育成を推進し、社会変革を先導する世界トップの研究大学を目指しています。

この「大学概要」では、本学の理念や運営体制をはじめ、教育、研究、社会貢献など多岐にわたる情報を紹介しています。

なお、最新の情報につきましては、本学ウェブサイトおよび公式SNSを通じて随時発信していますので、あわせてご参照ください。

学長 寺野 総

北陸先端科学技術大学院大学は、 豊かな学問的環境の中で世界水準の教育と研究を行い、 科学技術創造により次代の世界を拓く 指導的人材を育成します。

先進的大学院教育を組織的・体系的に行い、先端科学技術の確かな専門性と
ともに、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力をもつ、社会や
産業界のリーダーを育成します。

世界や社会の課題を解決する研究に挑戦し、卓越した研究拠点を形成すると
同時に、多様な基礎研究により新たな領域を開拓し、研究成果の社会還元を
積極的に行います。

海外教育研究機関との連携を通して学生や教員の交流を積極的に行うと
ともに、教育や研究の国際化を推進し、グローバルに活躍する人材の育成を
行います。



運営体制

学長

寺野 稔

経営協議会委員

学長 寺野 稔

理事 永井 由佳里 小泉 周
飯田 弘之 黒田 壽二
田谷野 孝夫

学外有識者

株式会社RICH代表取締役
北陸RDX総括エリアコーディネータ
井熊 均
東京大学 名誉教授／電気通信大学 名誉教授
岩澤 康裕
エルゼビア・ジャパン株式会社 バイスプレジデント
LeapSpaceプロダクトマネージメント
柿田 佳子
北陸経済連合会 会長
金井 豊
日本マクドナルドホールディングス株式会社 取締役
日本マクドナルド株式会社 取締役 上席執行役員 (CMO)
ズナイデン 房子
医療法人社団和楽仁芳珠記念病院 理事長
仲井 培雄
金沢大学 理事 (プロボスト・大学改革・教育・情報担当) / 副学長
森本 章治
石川県知事
山野 之義
福井大学 理事 (社会共創、企画戦略、広報担当) / 副学長
米沢 晋

総括理事

永井 由佳里

理事

小泉 周
飯田 弘之
永井 由佳里
黒田 壽二
田谷野 孝夫

監事

谷口 徹
水野 一義

教育研究評議会委員

学長 寺野 稔
理事・副学長 永井 由佳里
理事・副学長、附属図書館長 小泉 周
理事・副学長 飯田 弘之
副学長、先端科学技術研究科長 栗澤 元一
副学長、情報化統括責任者 丹 康雄
副学長 上原 隆平
副学長 神田 陽治
副学長 永田 晃也
副研究科長 西村 拓一
副研究科長 藤崎 英一郎
副研究科長 松村 和明
融合科学共同専攻長 林 幸雄
教授 金井 秀明
教授 白肌 邦生
教授 池田 心
教授 岡田 将吾
教授 大島 義文
教授 谷池 俊明
事務局長 阿部 哲也
副理事 澤川 浩之

CONTENTS

- 01 学長メッセージ
- 02 理念と目標
運営体制
- 03 特徴
- 04 沿革
数字で見るJAIST
- 05 アドミッション・ポリシー
- 06 多様な学生受け入れ
- 07 教育
- 09 研究領域
- 11 未来創造イノベーション推進本部
- 13 研究拠点・センター
- 14 JAISTを支える研究施設
- 17 学生サポート&キャンパスライフ
- 19 国際交流
- 20 就職支援
- 21 組織と財務
- 23 キャンパスマップ
- 25 公式マスコットキャラクター
JAIST Shuttle
大学歌
- 26 JAIST基金
JAIST同窓会
WEBコンテンツ

北陸先端科学技術大学院大学の特徴

新構想の 国立の独立大学院大学

学部を置くことなく、独自のキャンパスと教育研究組織を持つ、我が国で最初の国立大学院大学として1990年10月に創設されました。特定の先端科学技術分野に焦点を絞った柔軟な教育研究組織を体系的に整備し、幅広く様々な分野から多様な教員、学生が集まっています。

幅広く門戸を開放した 学生の受入れ

入学者の選抜は、面接を主体に行い、大学学部で3年以上在学した者を含め、出身学部・学科を問わず、社会人・留学生を含めて、あらゆる分野から意欲のある人材を受け入れています。

組織的な大学院教育

研究室における個別指導を中心にした教育ではなく、体系的なカリキュラムに基づき、コースワークを中心にして基礎から専門まで幅広い知識を修得できる大学院教育を実施しています。また、学生の研究課題として主テーマ・副テーマ制を、研究指導には複数教員指導制をそれぞれ創設当時から導入しています。

最高レベルの研究環境

最新の高度な実験設備を備えており、学生自身で自由に使うことができます。学生ひとりあたりの教員数が多いため、きめ細やかな指導を行っています。

社会、産業界との連携

社会、産業界との連携の窓口として、またイノベーション創出の拠点として、未来創造イノベーション推進本部を設置し、経験豊富なURA (University Research Administrator) を多数おいて、研究活動の活性化から社会への技術移転までを支援しています。また、2024年にスタートアップ推進室を設置し、北陸地域の大学・高専発スタートアップの創出を強力に支援することで、北陸地域の社会課題の解決に貢献していきます。

社会に有為な人材を育成する ための手厚い支援体制

短期修了制度

優れた業績を上げた者と認められた場合、博士前期課程は1年以上、博士後期課程は博士前期課程での在学期間を含めて3年以上在学すれば修了できます。

研究留学助成制度

博士後期課程学生を対象として、在学期間中に1回、研究留学の助成を行っています。

24時間開放の図書館

1996年の開館以来24時間365日オープンしています。

経済支援

雇用型奨学制度で、TA・UA・RA・LAとして雇用され、給与を受け取ることができます。

TA (ティーチング アシスタント)

全学生を対象に、教員の指導の下、授業の補助業務などに従事。

UA (ユニバーシティ アシスタント)

博士後期課程学生のうち希望者は全員採用され、教員の指導の下、研究補助業務に従事。年間最大60万円程度補助しています。

RA (リサーチ アシスタント)

博士後期課程学生を対象に、教員の指導の下、実習、実験の補助に従事。

LA (ラボラトリー アシスタント)

博士前期課程学生を対象に、設定された課題の研究活動に必要な補助業務に従事。

学生寄宿舎

キャンパス内にあり、学生の約60%が入居しています。(2026年5月現在)

沿革

1990

- ▶ 北陸先端科学技術大学院大学開学
- ▶ 情報科学研究科設置
- ▶ 附属図書館設置

1991

- ▶ 材料科学研究科設置
- ▶ 情報科学センター設置

1992

- ▶ 新素材センター設置

1994

- ▶ 保健管理センター設置

1996

- ▶ 知識科学研究科設置

2002

- ▶ ナノマテリアルテクノロジーセンター設置
(新素材センターを改組)
- ▶ ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー設置

2003

- ▶ 東京サテライト設置

2004

- ▶ 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学設立

2006

- ▶ マテリアルサイエンス研究科設置
(材料科学研究科を名称変更)

2011

- ▶ JAISTギャラリー設置

2013

- ▶ JAISTイノベーションプラザ設置

2014

- ▶ 産学連携本部設置

2016

- ▶ 先端科学技術研究科設置
(知識科学研究科、情報科学研究科、
マテリアルサイエンス研究科を統合)

2018

- ▶ 融合科学共同専攻設置

2022

- ▶ 未来創造イノベーション推進本部設置
(産学官連携本部を改組)
- ▶ リスキル・リカレント教育センター設置

2024

- ▶ スタートアップ推進室設置

2025

- ▶ アップスキリング推進センター設置
(リスキル・リカレント教育センターを改組)

2026

- ▶ 研究安全センター設置

数字で見る JAIST

学生数

1,132名

2026年5月1日現在

教職員数

学生8人
当りに
1人

311名

2026年5月1日現在

博士学位授与者数

修士学位授与者数

100名 271名

2025年度

2025年度

修了生累計

10,122名

2025年度末

論文数

論文引用度指数

「計算機科学・
人工知能」
分野

国内1位

数学分野

国内1位

科学技術・学術政策研究所 (NISTEP)
ベンチマーキング 2023 において
小分野における自大学がリードする
国際共著論文数

大学ランキング 2027 の分野別
論文引用度指数
クラリベイト社による InCites
データベースに対する調査結果において

学生一人あたりの教育経費※

2025年度決算

※教育経費/学生収容定員

839,000円

キャンパス敷地面積

113,063m²

東京ドーム
2.4 個分

留学生の割合

41.7% 472人

2026年5月1日現在

先端科学技術研究科

知識科学、情報科学、マテリアルサイエンスを統合した「一研究科体制」のもと、分野の枠を超えた教育・研究を展開しています。

自由度の高い科目履修により、専門性を活かした他分野への挑戦を後押しするとともに、教員間の協働や外部連携を通じて、常に新しい研究分野を切り拓いています。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程

求める学生像

本学は、知識科学、情報科学、マテリアルサイエンスを基幹とした先端科学技術分野における学修や研究への強い意欲と明確な目的意識を持ち、自分の考えを的確に表現でき、議論を通じて相互理解に努めようとする態度を持つ者を求めます。その際、学部を持たず大学院のみを置く大学として、過去の経歴や専攻分野にとらわれることなく、大学等の卒業・修了者、外国人留学生及び社会人等を広く受け入れます。

入学希望者は、各々が学士課程等において専攻した専門分野の学習内容を十分修得しておくとともに、本学入学後に行う学修・研究について準備しておくことが期待されます。

入学者選抜の基本方針

上記の求める学生像を踏まえて、入学後に学修・研究を行う上で必要な基礎的な学力・能力や意欲等について、入学後に取り組みたい研究課題に関する小論文、面接(口頭発表及び口頭試問。基礎的な学力等及び学士課程等の専攻分野に関する口頭試問を含む。)及び大学等の成績証明書によって評価して入学者を選抜します。

なお、評価に当たっては、出願書類を参考にしつつ、面接結果を重視します。ただし、推薦入学特別選抜にあっては、原則として、面接を免除し、小論文及び推薦書等の出願書類等に基づき、入学者を選抜します。

博士後期課程

求める学生像

本学は、知識科学、情報科学、マテリアルサイエンスを基幹とした先端科学技術分野における研究への強い意欲と研究を通じた社会貢献に関して明確な目的意識を持ち、自分の考えを的確に表現でき、議論を通じて相互理解に努めようとする態度を持つ者を求めます。その際、学部を持たず大学院のみを置く大学として、過去の経歴や専攻分野にとらわれることなく、大学院等の修了者、外国人留学生及び社会人等を広く受け入れます。

入学希望者は、知識科学、情報科学、マテリアルサイエンス及びその関連分野に関する専門的学力・能力を修得し、修士学位に相当する研究実績を有していることが期待されます。

入学者選抜の基本方針

上記の求める学生像を踏まえて、これまでの研究実績、入学後に学修・研究を行う上で必要となる専門的学力・能力及び意欲について、入学前の研究概要・入学後の研究計画等に関する出願書類及び面接(口頭発表及び口頭試問)により評価して入学者を選抜します。

なお、評価に当たっては、出願書類を参考にしつつ、面接結果を重視します。ただし、推薦入学特別選抜にあっては、面接を免除し、研究概要及び研究計画等の出願書類等に基づき、入学者を選抜します。



多様な学生受け入れ

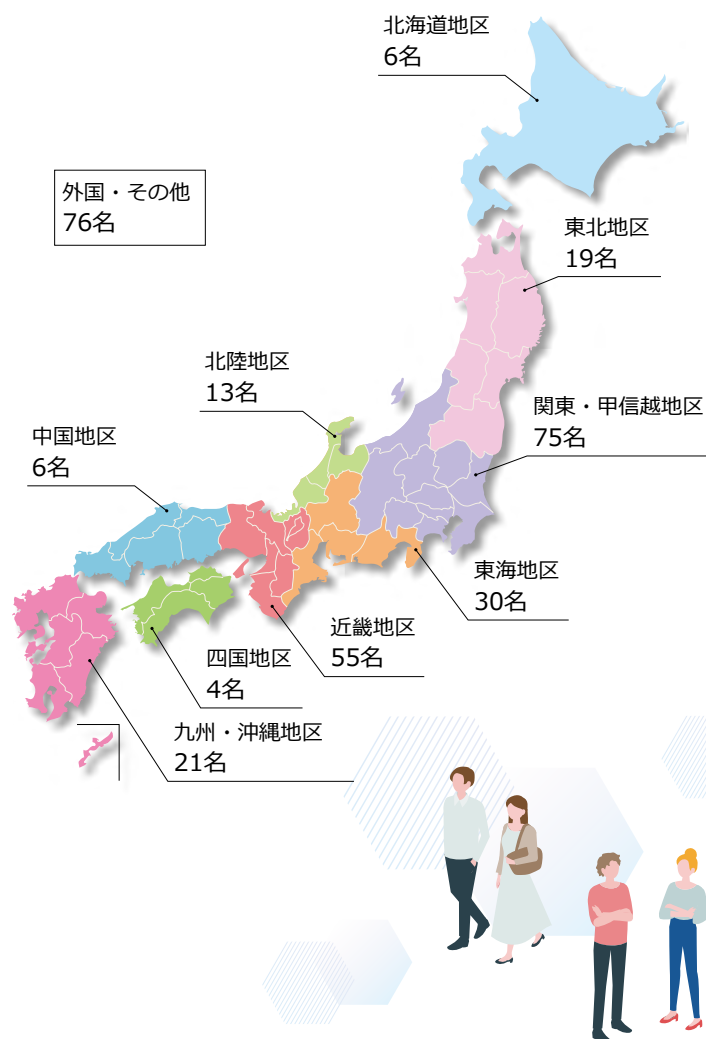
学生数 2026年5月1日現在(単位：名)

	博士前期課程				博士後期課程					合 計
	収容定員	1年	2年	計	収容定員	1年	2年	3年	計	
先端科学技術専攻	594	321 59 112	406 74 178	727 133 290	285	85 21 33	83 24 43	205 57 96	373 102 172	1,100 235 462
融合科学共同専攻	20	10 0 1	10 2 3	20 2 4	15	3 1 2	3 0 2	6 0 2	12 1 6	32 3 10
合 計	614	331 59 113	416 76 181	747 135 294	300	88 22 35	86 24 45	211 57 98	385 103 178	1,132 238 472

※赤字は女子で内数
青字は外国人留学生で内数

入学者の出身地 2026年4月入学者

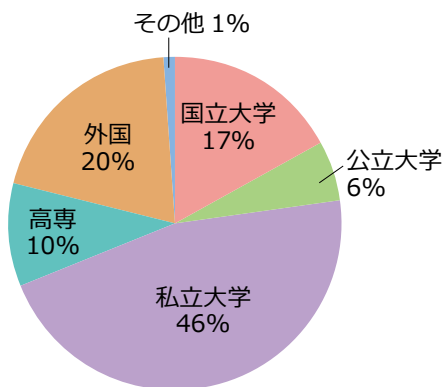
※出身高校等の所在地による



入学者の出身校内訳

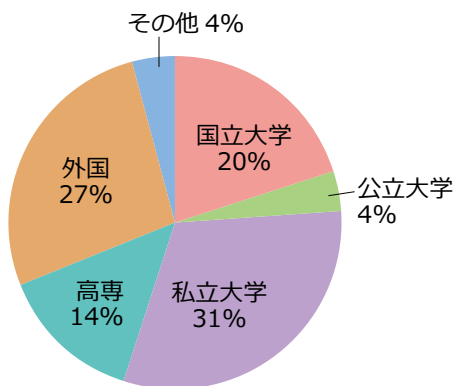
2026年4月博士前期課程入学者

※出身大学



2026年4月博士後期課程入学者

※出身大学

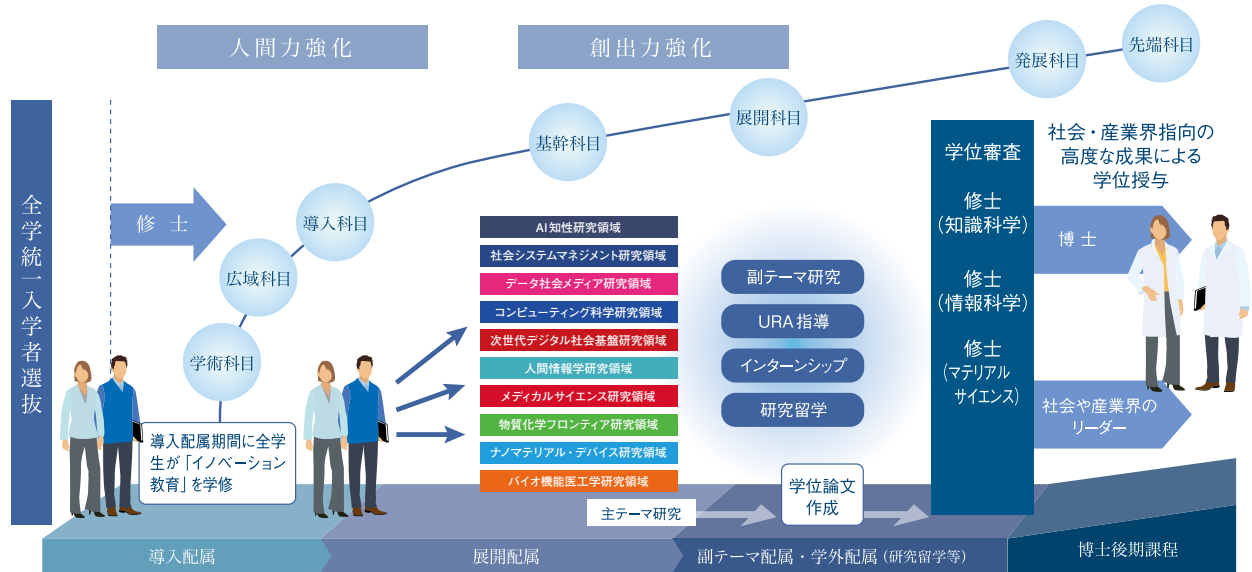


学位授与状況

2026年3月31日現在で、博士前期課程修了者 **8,471名** (修士号)、博士後期課程修了者 **1,651名** (博士号)を社会へ送り出しています。

教育システム

システム化した授業と研究指導によって
「しなやかな強さと共創力を備えたグローバルリーダー」を育成します。



JAIST×Humanコース



文部科学省の令和6年度大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)の採択に伴い、2025年度10月に、高度情報専門人材育成コース(通称、JAIST×Humanコース)を開設しました。

産業界において要請が高いAIソリューション技術や、AI倫理の知識を有し、AIと人との共生社会における次世代AIの研究開発に取り組み、多様なAIソリューションの創出において網羅的かつ複合的に課題解決できる、次世代AI社会の創成を担う高度情報専門人材を育成するため、4つの分野(AI×インタラクション×サイバーセキュリティ×ヒューマン)を複合的にカバーしたカリキュラムを用意しています。

本コース定員

博士前期課程学生 15名
博士後期課程学生 5名

本コースの特徴

- ✓ 4つの研究分野をカバーしたユニークな研究教育環境を提供
- ✓ 演習・実習を重視したカリキュラム
- ✓ 4分野共通科目を提供(AI倫理など)
- ✓ 分野を跨いだ複数教員指導制を提供
- ✓ 分野のJointは学生が主体的に選択
- ✓ 教育研究環境のグローバル化
- ✓ 産業界を含む社会のニーズに対応したリカレント教育

AI

- ▶ 深層学習
- ▶ 説明可能AI
- ▶ 自然言語処理
- ▶ 機械学習理論
- ▶ 人間中心AI

サイバーセキュリティ

- ▶ サイバーセキュリティ
- ▶ ネットワークセキュリティ
- ▶ 生体認証
- ▶ AIセキュリティ

機械学習演習

アルゴリズム

AIセキュリティ

サイバーセキュリティ演習

セキュリティ対策

脅威やリスク

インタラクティブAI

数理工学

共通

AI倫理教育・

ヒトを対象とする

研究倫理教育・

データサイエンス

知覚情報処理

センシング

心理統計学演習

マルチモーダル

原理・メカニズム

HRI/HCI

知覚実験

演習

知覚実験

演習

インタラクション

- ▶ マルチモーダルインタラクション
- ▶ 人間拡張
- ▶ 認知科学
- ▶ VR/AR/MR
- ▶ HCI

ヒューマン

- ▶ 音声・聴覚情報
- ▶ 視覚・触覚
- ▶ AI教育
- ▶ 環境センシング
- ▶ 多感覚知覚・統合

東京社会人コース・ 産学連携社会人コース



品川駅から徒歩3分という利便性の高い場所に東京サテライトを設け、働きながら修士号や博士号の取得を目指す意欲的な社会人を対象とした複数のプログラムを提供しています。知識科学や情報科学のホットなトピックに関する公開セミナーや研究会を開催するほか、共同研究や産学連携、社会人学生同士の交流を通じた学生のキャリア支援の機会も提供しています。



博士前期課程

技術経営(MOT)プログラム

技術経営(MOT: Management of Technology)プログラムは、「技術の分かる経営者、経営の分かる技術者」の育成を図ります。従来のMBAやMOTとは異なり、知識科学を基盤としたMOT、すなわち人間の「知識」を経営リソースとして創造・共有・継承・活用するマネジメントに重点を置いています。

博士前期課程

サービス経営(MOS)プログラム

サービス経営(MOS: Management of Service)プログラムでは、サービス経営全般の知識を習得しながら、知識科学とサービス科学を基礎にした医療・福祉・教育・観光サービスおよびサービス視点での組織のイノベーションの研究を行い、その成果を業務や経営で実践できる人材の育成を図ります。

博士前期課程

IoT・AIイノベーションプログラム

本学が得意とする最先端の情報技術と技術・サービス経営の研究・教育の実績に基づき、令和の時代の付加価値や競争力の源泉であるIoT・AIや人工知能に関する情報技術の習得とともに、いかにしてイノベーションを起こすかにも焦点を当て、IoT・AIイノベーションを先導する人材の育成を行います。

博士後期課程

先端知識科学プログラム

技術・サービス経営を含む知識科学全般にわたる高度な専門知識・技術を教授するとともに、高度な研究能力と実践力を持つ専門職および知識科学研究者の育成を目指します。

博士後期課程

先端情報科学プログラム

情報科学に関わる分野の広がりをもとに最新の研究をもとに俯瞰でき、技術イノベーションを自ら生み出すことのできる先端情報科学人材を養成します。

博士後期課程

価値創造実践プログラム

価値創造方法をアクティブラーニングの方法により学修・研究し、「グローバル課題発見」の実践力を涵養することで、国際的に通用する未来価値創造力を身につけます。

自由
選択

博士前期課程

博士後期課程

サステナブルサービスリーダー育成プログラム

資源循環型社会の実現に向けて、より良い消費者行動を促す循環型のサービスビジネスを構想し、産業界で活躍できるサステナブルサービスリーダーを育成します。

自由
選択

融合科学への挑戦

共同教育課程 融合科学共同専攻



未来を予測することが難しい現代社会において、卓越した創造性と主体的な行動力で社会をリードできる「科学技術イノベーション人材」を育成するため、2018年4月に金沢大学と共同教育課程を設置しました。「科学を融合する方法論」の探求と実践を通じて、複数の科学分野の融合促進及びイノベーションへの貢献」を教育理念として掲げ、「融合型大学院教育モデル」の構築を目指しています。この専攻は、両大学それぞれが得意とする分野の科目を提供し、1つの教育課程(カリキュラム)を編成するもので、どちらの大学に入学しても、同じ教育プログラムを受けることができます。

給付型奨学金

返済不要

本専攻では、優秀な学生を対象とした奨学金制度を設けています。

博士前期課程

給付額	給付期間
月額 50,000 円	2 年間

博士後期課程

給付額	給付期間
月額 100,000 円	3 年間

深遠な知性を解明し、

AIと共に歩む未来

AI技術を深化させ、思考や倫理観、創造性といった「人間らしい知性」の解明と拡張を目指します。数値化が難しい感性や暗黙知を科学的に構造化し、対話ロボットや次世代ロボティクス、科学研究の自動化などを推進。人間とAIが高度に共生し、人類の知的な可能性を広げるための方法論を確立します。

AI知性研究領域

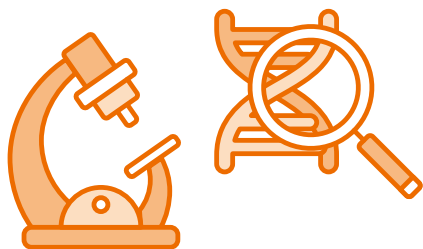


知識経営研究を基盤に、AI等の先端技術と「人類知性」を融合させ、社会課題の解決を目指します。個人から地球規模のシステムまでを対象に、ウェルビーイングや共通善といった価値創造のための知性を研究。変革的資源としての知識を高度化し、より良い社会を構築するための知性の創造・デザインを追究します。

社会システムマネジメント研究領域



知性で組織と社会を
デザインする



JAIST独自の先端バイオ技術を駆使して、分子レベルから細胞レベルのバイオ機能のさらなる理解を目指すとともに、医療・ヘルスケア分野等における応用展開に取り組んでいます。

バイオ機能医工学研究領域

の理解に基づく
先端バイオテクノロジー研究

バイオ機能



創発 ナノマテリアル

と未来社会を拓くマテリアルサイエンス

ナノマテリアルの創製から解析、応用までを行い、量子技術やAIも活用して、最先端マテリアルサイエンスを推進しています。多様な専門が協働し、持続可能な未来社会の実現を目指します。

ナノマテリアル・デバイス研究領域

研究

Research Area

新材料で
未来を創る

物質化学の
フロンティアに挑み



化学の基本原則にAIと先端計測・解析を融合し、分子・原子レベルで新機能材料を設計します。材料とプロセスの創出を通じて社会課題に応え、持続可能な社会に貢献します。フロンティアを切り拓く人材を育成します。

物質化学フロンティア研究領域

「知」の冒険！

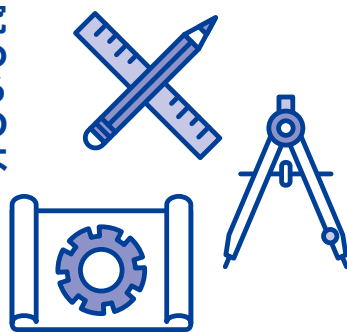
データと想像力で社会を動かす

データとメディアを通じて、人間社会のための「知」を切り拓きます。AIを活用したデータ駆動による知識発見と、人間の想像力を融合させた創造的研究を推進。学びや生活を彩るメディア技術を開発し、個人の活動から文化、地球規模の社会課題まで、理論と実践の両面からその解決と新たな価値創造に取り組んでいます。

データ社会メディア研究領域

導く力

究めるのは
正しい結論を



すべての問題がコンピュータで簡単に解けるわけではありません。どうすれば正しい答えを安全に、そして速く手に入れられるのかを、数学や人工知能などを使って幅広く研究し、未来の技術を支える力を育てます。

コンピューティング科学研究領域

領域

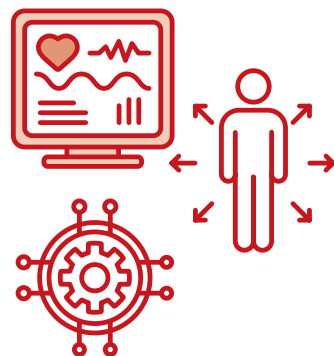
研究領域をもっと知る



未来を支える

ICTの力

スマホやインターネットを支えるICTは、社会や企業に欠かせない技術です。この領域では、ICTの基礎から応用までを学び、便利で安心なスマート社会の実現に向けて、社会全体に役立つ研究と人材育成を行っています。



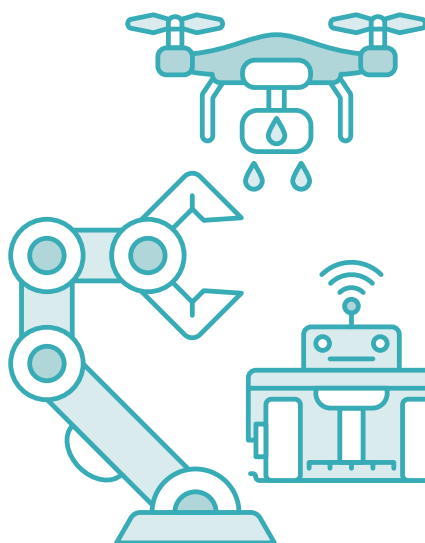
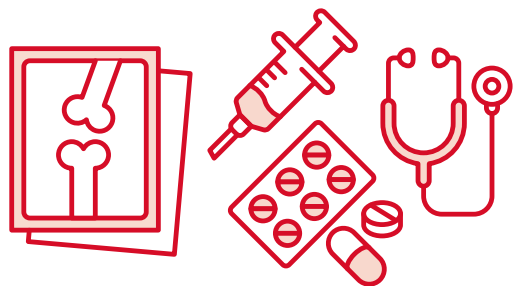
次世代デジタル社会基盤研究領域

未来を創る、

医療材料イノベーションの最前線

生命科学・医学・工学を融合し、革新的な医療技術や診断・治療法の開発を目指します。材料化学やナノ技術を駆使し、疾患の解明や個別化医療を実現。細胞治療、再生医療、ドラッグデリバリーなどの次世代技術に焦点を当て、基礎研究を実用的な医療へとつなげる「橋渡し」の役割を担い、医療の未来に貢献します。

メディカルサイエンス研究領域



の調和をはかる研究

人間中心の視点から 人と機械

人が五感で感じとる知覚情報をどのように処理し、伝えるのかを研究しています。人間の多感覚モダリティや言語非言語情報の認識・理解を通じて、人と機械の調和のとれた人間中心社会の形成に貢献します。

人間情報学研究領域

未来創造イノベーション推進本部

未来創造イノベーション推進本部は、大学の最先端の研究を活かし、社会や産業界等との橋渡しをする役割を担っています。また、イノベーション創出の拠点として、地域の課題から国際的・グローバルな課題まで、さまざまな社会課題の解決を目指して活動しています。



スタートアップ 推進室



科学技術振興機構(JST)の「大学発新産業創出基金事業」の採択を受けた「Tech StartUp HOKURIKU(TeSH)」事業を推進しています。TeSHは、北陸の大学・高専が連携し、北陸地域の大学・高専発スタートアップを充実させ、地域の活性化や課題解決に貢献することを目指します。

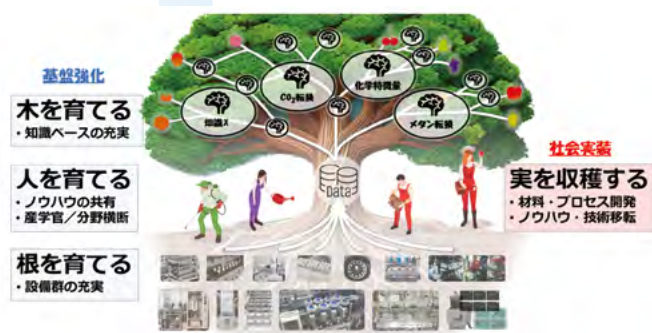
産学官連携推進センター

本学における研究活動の活性化から技術の社会実装までを一貫して支援しています。知的財産の活用や人材育成も進め、社会や産業界などと連携し、研究成果の社会実装を推進するとともに、イノベーション創出の拠点としての役割を担っています。



地域イノベーション 推進センター

北陸で培った取り組みを全国へと展開し、地域の活性化を日本全体の発展につなげていきます。本学独自の「Matching HUB」事業により大学の研究シーズと産業界等のニーズを結びつけ、地域発のイノベーションを全国へ波及させる活動を進めています。



超データ駆動材料 探索センター

データ駆動型アプローチにより、革新的な材料発見を「意図的」なものへと変え、未知の領域を切り拓くことを目指します。設備の共用や産学連携を軸に、研究成果を社会実装し、次なる設備強化へつなげる好循環を確立。材料科学の進化を通じて、産業競争力の強化に貢献します。

知識イノベーション 研究センター



先端技術の可能性とリスクを見据え、RRI (Responsible Research and Innovation) の理念のもと、知識科学の手法で持続可能で豊かな未来社会を実現する知性(Wisdom)の創造を支援します。



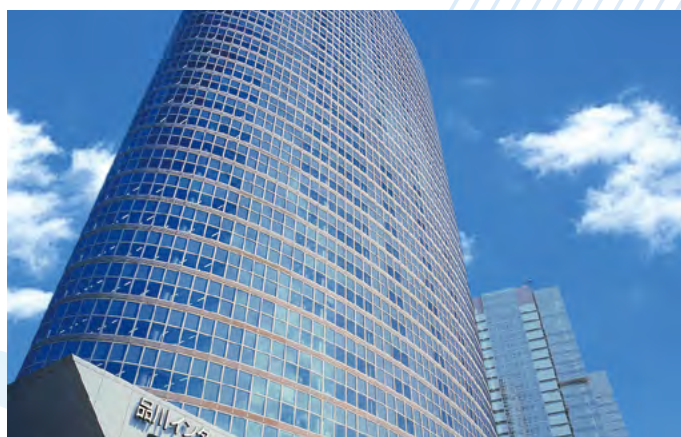
未来デザイン 研究センター



社会や技術の将来像を描き、予測と逆算を融合した手法で持続可能な未来社会の実現を目指します。多様な価値が共存する未来の姿を柔軟にデザインします。

JAIST首都圏センター

首都圏の企業や人材のネットワークを活用し、北陸地域への「知・人・資本」の流れを強化することで、学際的研究の創出とその社会実装を推進します。東京サテライトを拠点とすることで、首都圏との接点を持ちながら活動の基盤を築き、優れたアクセス性を活かした連携と展開を図っています。



研究拠点・センター

社会の未来を見据えた
先進的な取り組み



超越バイオメディカル DX研究拠点

健康長寿と質の高い生活を実現するための革新的な早期診断、創薬基盤ツール、再生医療用バイオマテリアルの開発を目標とし、既存の枠にとらわれない「超越」的な発想でバイオ医工学イノベーションの構築を目指します。



超越量子 未来アリーナ

量子マテリアル、量子通信、量子センシング、総合知など多様な領域の知見を融合し、実用的な量子通信の開発や、災害対策・健康分野への応用といった社会課題の解決に積極的に取り組みます。

AI駆動社会変革 推進拠点

文系・理系の枠を超えた融合型AI研究に、スパコン等の先進計算基盤を組み合わせ、世界を先導する研究の創出を目指します。研究成果を教育・人材育成・地域企業のDX推進に展開することで、社会課題の解決と社会実装を一体的に推進します。



AI・ソフト ロボティクス研究拠点

ソフトロボット技術や生成AI等の最先端技術の開発を行い、ロボットや機械が人間や生物のように、環境の変化に柔軟に適應できるロボット基盤の構築を目指します。



生体機能・ 感覚研究センター

五感情報通信技術の研究と先進医療のための革新的な診断・治療システムの研究を行っています。また、これらの研究のシナジー効果により、生体機能や感覚機能の強化・回復・再生といった革新的医療技術の創出を目指しています。



カーボンニュートラル 研究センター

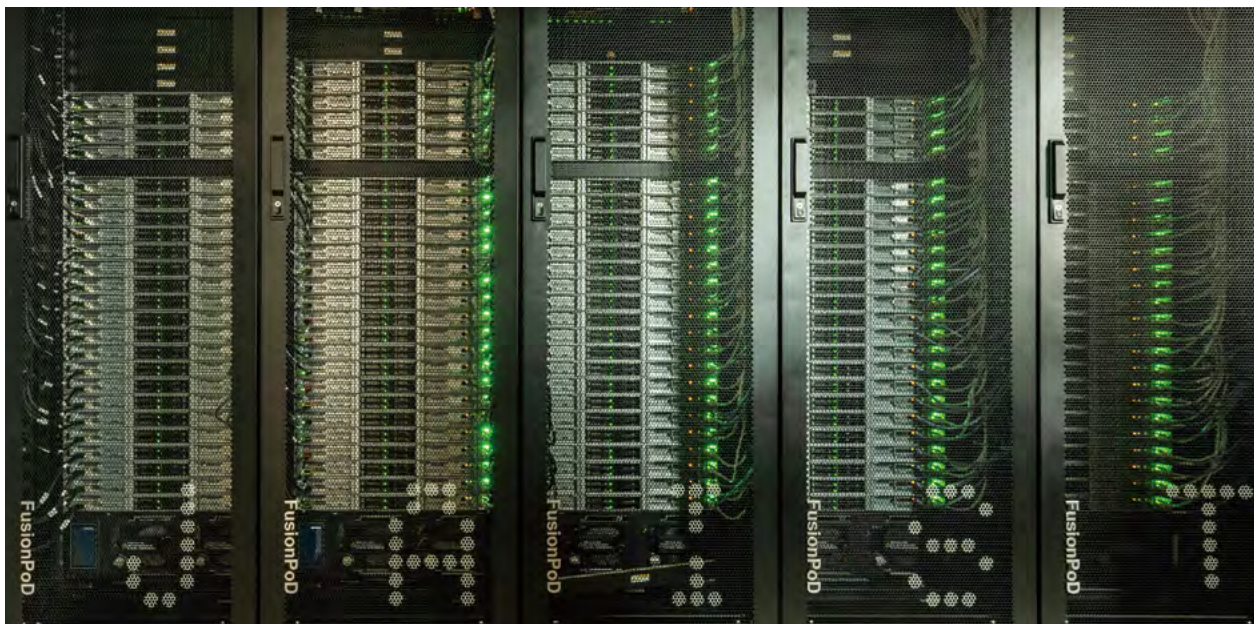
再生可能資源や省エネルギーの開拓、AIやDX等の技術を活かした高機能材料の研究により、脱炭素社会と持続可能な未来の早期実現を目指しています。



自然との共感・共生 テクノロジー研究センター

ナノからマクロまでの幅広いセンサー技術で、自然界の「声なき声」を捉え、災害や感染症の予測・予防を可能にする新技術を開発することで、自然との共感を深め、安全で多様性を尊重する社会の実現を目指します。

JAISTを支える研究施設



高度な情報基盤により教育・研究活動を支える

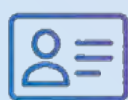
情報基盤センター



全学の教育・研究を支える高度な情報基盤として、ネットワーク、クラウドサービス、学内システムを統合的に整備・運用しています。学生・教職員の多様なニーズに応えるため、対面と遠隔を柔軟に融合した教育・研究環境を提供するとともに、情報セキュリティの強化やDX施策の推進を通じて、安全性・利便性・発展性を兼ね備えた情報環境の実現に取り組んでいます。



全ての学生・教職員が利用できる最新の情報環境を提供しています



JAIST-SSO



ネットワーク



メール



電子証明書



ストレージ



セキュリティ



リモートアクセス



統合印刷



JAISTクラウド



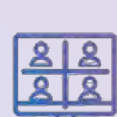
大規模計算



ソフトウェア



講義アーカイブ



遠隔会議

AI・科学計算を支える先進計算環境を提供

先端科学計算研究センター

本学の全構成員を対象に、超並列計算機やGPUを活用した先進的な計算環境を提供する新設センターです。知識科学、情報科学、マテリアルサイエンスにおける幅広い研究活動と先端計算教育を支援し、AI・データ駆動型研究を推進しています。また、次世代計算技術の導入と研究開発を推進し、最先端の科学計算基盤の整備に取り組んでいます。

社会人の学び直しと成長を支える

アップスキリング 推進センター



社会人が在職のまま必要なスキルを短期間で効率よく修得できるよう支援します。生涯学び続ける時代に即した教育を通じ、個人のキャリア形成を強力に後押しすることを目指します。

ナノマテリアル研究成果の社会還元を目指す

ナノマテリアルテクノロジーセンター



ナノテクノロジーの集積・高度化や新たなデバイスの開発・実用化に関する研究を推進するとともに、マテリアルサイエンス分野(ナノ物質・材料に関する基礎研究)、情報科学分野(ナノデバイスの設計・開発)、知識科学分野(ナノ物質の知識ベース構築)などナノ関連の教育・研究を展開するための基盤的な支援を行っています。また、研究成果の社会への還元や優秀な人材の育成にも取り組んでいます。

5つの柱

ナノマテリアルテクノロジーセンターは、学内の基礎研究を常に活性化しつつ、そこから生まれる新たな発想や手法、技術をナノマテリアルの開発へと効果的に結びつける役割を担っています。具体的には、次の**5つを重要な柱**と考えています。

ナノマテリアルの開発に関する共同研究の支援	ナノマテリアルの開発には、研究の芽を育てること(Seeds)と必要に迫られるもの(Needs)とがあります。前者は、規模的には小さく、研究者のアイデアが具体化することが重要になり、後者は、組織的に編成して計画、分担、評価を繰り返すプロジェクト研究となります。ナノマテリアルテクノロジーセンターは、これらの形態に応じて、支援を行います。また、共同研究を取り巻く種々の活動として、関連する研究発表会や懇談会などを定期的に開催し、その成果を公表します。
ナノマテリアルテクノロジー関連研究者・技術者の人材育成	ナノテクノロジーを基盤とし、最先端科学技術をリードするために、中核的役割を担う研究者・技術者の輩出を目的とする教育コースが設けられています。
国際的共同研究の支援	本学の研究チームと欧米、アジアの第一線の研究グループとで、世界的に最高水準でかつ高い独自性を有する共同研究を、センターとして組織的に支援する体制を整えています。
分析機器の保全管理	ナノマテリアルの開発手段として、材料の設計、作製、評価を行う大型・中型分析機器が必要となります。これらの機器をナノマテリアルテクノロジーセンターに集中配置し、管理保全を行います。また、これらの機器の使用に際して使用手続き、操作等について適切な方法等を提示し、円滑な運用を図ります。
学生の実験と実習の支援	研究科の学生の大型機器使用に際して、操作方法の指導やデータ解析の教育的指導を行います。また、学内施設の利用における安全教育を行います。



安全で安心な研究環境を実現する

研究安全センター

研究活動上必要な、毒物・劇物・危険物を含む化学薬品、可燃性・毒性を含む高圧ガス、液体窒素・液体ヘリウムなどの低温液化ガス、および研究活動により生じた廃液・廃棄物について、適切かつ安全に管理するとともに、これらに関する安全管理教育を行っています。

24時間365日開放されている知の宝庫

附属図書館



多様な研究スタイルに合わせて「24時間開館」、「研究図書館」、「電子図書館」の3つをキーワードに運営しています。資料が必要なときにいつでも自由に利用できるように、全面開架方式と自動貸出装置を導入しています。現在の蔵書数は約16万冊、これらの検索はもちろん、国内外の電子ジャーナル約5千タイトルやデータベースに、学内情報ネットワークからいつでも気軽にアクセスできます。

また、“温故知新”を掲げた貴重図書室には、『解体新書』初版本(1774年)をはじめとする自然科学及び哲学に関する貴重図書や、郷土の芸術家の美術作品を展示しています。

160,000冊!

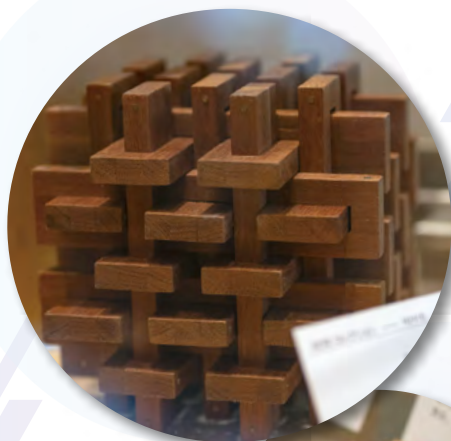


世界屈指のパズル展示

JAISTギャラリー



パズルの作家兼コレクターとして著名な故芦ヶ原伸之氏が収集した“NOB(ノブ)コレクション”を中心とする世界的にも貴重なパズルコレクションや、本学の研究成果等を展示しています。ギャラリーそのものも組木パズルをイメージしたデザインで、様々な工夫を凝らした展示となっています。また、パズルをご覧いただくだけでなく、実際に触って解いて楽しめるプレイルームも併設しています。



学生サポート & キャンパスライフ

学生が教育・研究活動に専念することができるよう、
最大限の支援を実施しています。



入 学 料

282,000 円

授 業 料

267,900 円/半期 (1学年2学期制)

経済的困窮者に対する入学料／授業料免除制度

経済的困窮者は申請により、入学料、授業料の全額又は半額を免除する制度があります。
授業料免除制度については、本学の定める免除基準(家計基準及び学業基準)を満たす学生は、過去5年(2021-2025)全員免除(全額又は一部)されています。

日本学生支援 機構奨学金



学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により、修学が困難であると認められる場合には本人の出願に基づいて選考の上、奨学金が貸与されます。

学生相談室



学生が悩みごとを気軽に相談できるように、カウンセラーを配置した「学生相談室」を設けています。学生生活での困りごとや将来への不安など、お気軽にご相談ください。



保健管理センター



学生が心身ともに健康で、不安なく勉学や研究に打ち込むことができるようサポートしています。専任医師・看護師によるケガや急病の応急処置、健康相談等に応じるとともに、毎年全学生を対象に健康診断を実施しています。

学生寄宿舍



本学の学生寄宿舍はキャンパス内にあり、単身室、夫婦室、家族室を用意しています。各部屋から学内LANを利用することが可能です。

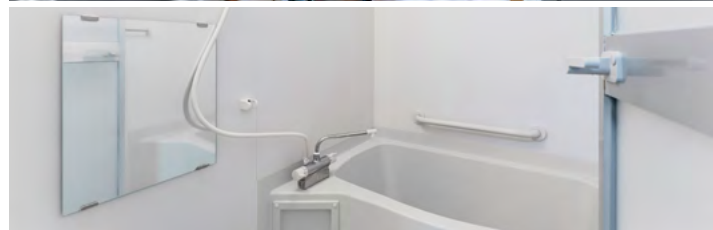
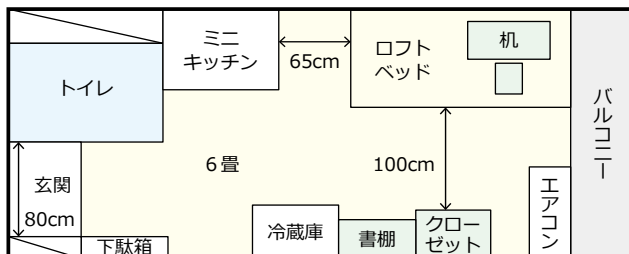
2025年度 入居率	博士前期課程	博士後期課程
	100%	100%

※単身室入居率＝入居許可者/入居希望者 ※次年度の入居率は状況により変化します。

単身室

居室設備	机、椅子、ロフトベッド、書棚、下駄箱、クローゼット、冷蔵庫、エアコン、ミニキッチン、トイレ
寄 宿 料	月額12,540円
共用設備	ユニットバス、ランドリー、飲料自販機、専用駐輪場、ラウンジ、集会室、和室

単身室居室



便利で健康的な毎日をサポートする施設たち



食 堂

季節感を取り込んだ豊富なメニューの中から好きなものを選ぶカフェテリア方式の食堂です。



売店(ファミリーマート北陸先端大学/S店)

食品、文房具、日常生活雑貨等を販売するほか、宅配便の発送などを行っています。コンビニATM、マルチコピー機を設置しています。



トレーニングルーム

トレーニングマシン等の器具及びシャワー室を完備しています。

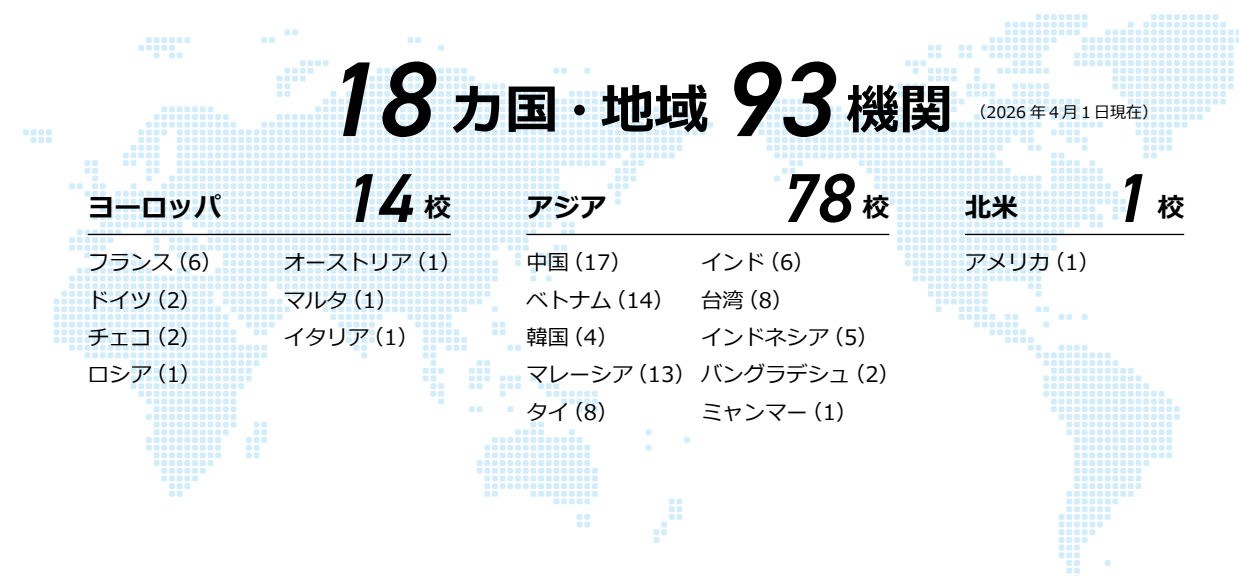
国際交流

本学では、国際的な共同研究、人的交流の促進、国際的なシンポジウムなどの開催、留学生及び外国人教員の積極的な受入れ、海外の大学との教育連携プログラムの推進などに取り組んでいます。



学術交流協定

世界をリードする研究を推進して、国際社会で通用する人材を育成するため、海外の大学や研究機関との人的交流及び共同研究を通して、積極的に海外研究機関との学術交流に取り組んでいます。



研究留学助成制度

国際会議研究発表支援制度

国際的な立場で活躍する人材に求められる資質である「人間力・創出力」「主体性・積極性」等のグローバルイノベーションを創出する能力を備えた優秀な科学者・技術者を育成し、産業界等社会に輩出することを目的として、博士後期課程学生を対象に、研究留学や国際会議での発表に係る旅費等を助成しています。



JAIST・協定校接続プログラム "JUMP"

JAIST Partner University Master Connection Program

主にASEANの連携先大学の学部3～4年生を対象としたインターンシップ等の支援プログラムを通して、優秀な博士前期課程学生を積極的に獲得し、国際的な教育研究連携の構築を目指しています。

外国籍教員数と留学生数 (2026年5月1日現在)

	教員	留学生
アジア	33	465
ヨーロッパ	5	1
北米	3	0
アフリカ	0	4
オセアニア	1	0
中南米	0	1
中東	1	1

連携先

Universitas Komputer Indonesia[UNIKOM] (インドネシア)	Mahidol University (タイ)
National University of Malaysia[UKM] (マレーシア)	National Dong Hwa University[NDHU] (台湾)
Sirindhorn International Institute of Technology, Thammasat University(タイ)	Universitas Sriwijaya (インドネシア)

(2026年5月現在)

就職支援

充実の 就職支援体制

企業や就職に関する各種情報や資料、先輩の就職活動体験記を提供するとともに、資格を持ったキャリアカウンセラーがマンツーマンでアドバイスを行っています。



学内合同業界研究セミナー 学内個別企業セミナー

本学学生に強い関心を持つ企業を招き、対面またはオンライン形式で合同企業セミナーを開催しています。また、個別の企業セミナーも随時開催し、キャンパス内で業界・企業研究を行うことができます。



就職対策講座

外部講師を招き、インターンシップガイダンスや就職対策講座を開催しています。「自己分析」「業界研究」「ESや履歴書対策」「面接トレーニング」など、実践的かつ効果的な方法を学ぶことができます。



キャリアメンター制度

様々な分野で活躍する本学のOB・OGが、キャリアメンターとして就職及びキャリア形成に関する個別の相談や助言等を行うほか、学内セミナーの講師として講演するなどして在学生を支援しています。また、交流会でグループ単位のメンタリングも行っています。



主な就職先

博士前期課程 (2025 年度修了者)



知識科学	アイネット / AKKODiSコンサルティング / NTPPCコミュニケーションズ / FDK / エムスリー / オムロンヘルスケア / カシオ計算機 / サンダーソフトジャパン / 三和物産 / SHIFT / シャープ / SOLIZE Holdings / 大気社 / 大日本印刷 / Tencent Japan / デンソーテクノ / 東海メディカルプロダクツ / 東芝デジタルソリューションズ / 東洋紡 / TOPPAN / トヨタコネクティッド / ドン・キホーテ / Nanjing Well Pharmaceutical Group Co. (中国) / 日本電気 / 日本アイ・ビー・エム / 日本プロセス / パーソルキャリア / バッファロー / BANDAI SPIRITS / 日立産業制御ソリューションズ / 日立製作所 / 日立パワーソリューションズ / 日立ビルシステム / 防衛省海上自衛隊 / 北國新聞販売 / 三谷産業 / 三菱地所ITソリューションズ / 三菱重工業 / 三菱UFJインフォメーションテクノロジー / MIRAIZ / みんなの銀行 / メルベイ / ルートインジャパン ほか
情報科学	アイシン / AKKODiSコンサルティング / アスクル / Astemo / Amazon Web Services Canada, Inc. / ALSOK / インターネットイニシアティブ / NTTデータ / NTTドコモ / オープンロジ / OKIソフトウェア / 沖電気工業 / オムロンヘルスケア / QUICK / クロスキャット / コーエーテックモゲムス / さくらインターネット / 山九 / CRI / ミドルウェア / GMOインターネットグループ / スギノマシン / スタンレー電気 / STELAQ / 住友重機械工業 / 双日デックイノベーション / ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ / 橋本チエイン / ティーアンドエムホールディングス / デロイトトーマツサイバー / 東京ガス / 東芝デバイス&ストレージ / トヨタ自動車 / Toyota Motor Engineering & Manufacturing (中国) / 日経情報システム / 日産自動車 / 日本電気 / 日本マイクロソフト / NET SPARK / 日立ヴァンタラ / 日立建機 / 日立産機システム / 日立情報通信エンジニアリング / 日立製作所 / プレインバッド / 本田技研工業 / 三谷産業 / 三菱電機 / 三菱マテリアル / メルカリ / MonotaRO / ヤマハロボティクス / UACJ / 楽天グループ / リコーITソリューションズ / ルネサスエレクトロニクス / ログラス ほか
マテリアルサイエンス	愛三工業 / Astemo / 因幡電機産業 / インフィニオン テクノロジーズ ジャパン / 大阪富士工業 / キオクシア / キャタラー / 共英製鋼 / 倉敷紡績 / 神戸製鋼所 / SCREENセミコンダクターソリューションズ / ダイキンファインテック / 大日本印刷 / タキロンシーアイ / タダノインフラソリューションズ / 多摩化学工業 / タワーパートナーズセミコンダクター / TIS / テルモ / 東ソー / TOYO TIRE / 日華化学 / 日星電気 / 日本触媒 / 日本精工 / 日本発条 / ニフコ / 日本食研ホールディングス / 日本モレックス / マイクロンメモリジャパン / マキタ / MARUWA / 三井E&S / 三菱電機 / 八千代工機 / ルネサスエレクトロニクス ほか
融合科学	ダイオエエンジニアリング / ディー・エヌ・エー / 東京都教育委員会 / 日立ソリューションズ・クリエイト ほか

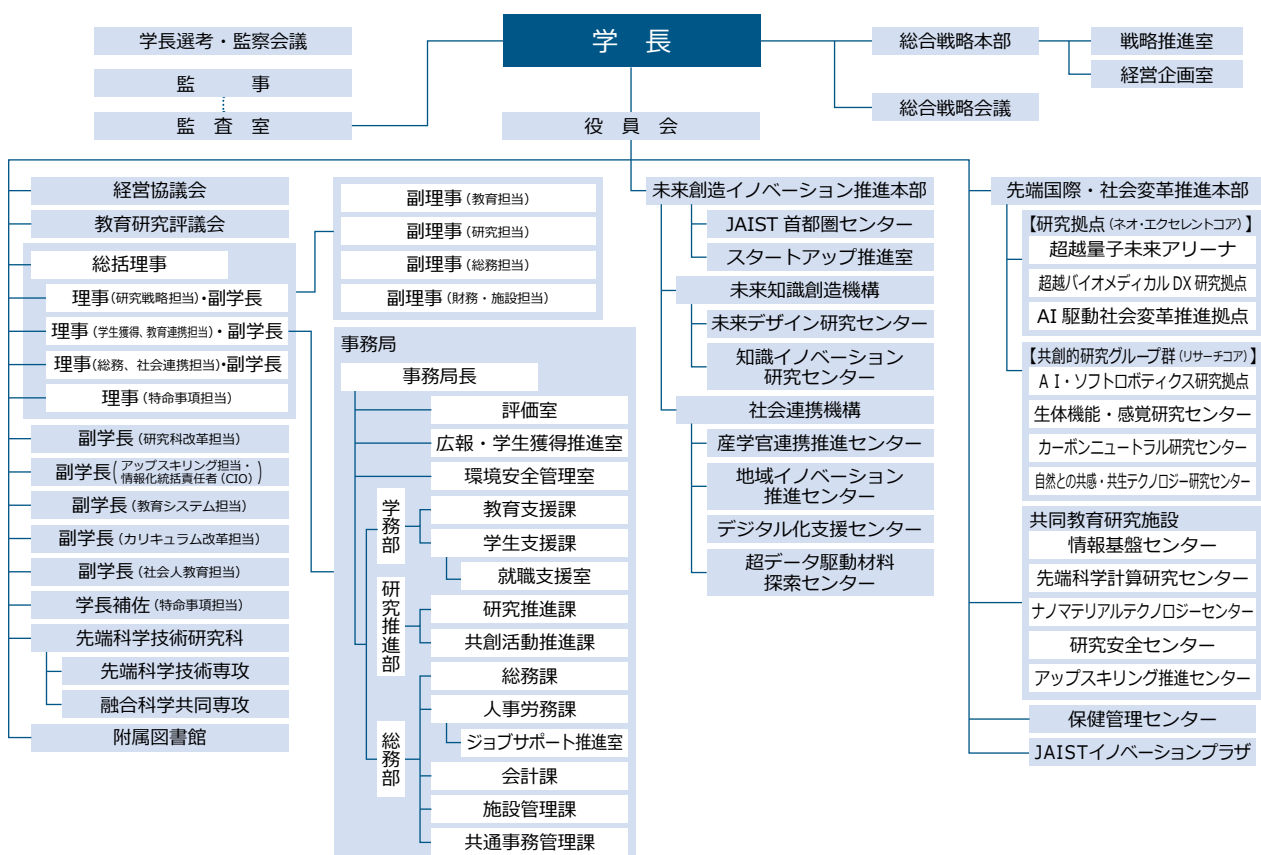
博士後期課程 (2016 ~ 2025 年度修了者)

知識科学	本学 / アサヒオプティカル / FPTジャパンホールディングス / 小樽商科大学 / 金沢星稜大学 / 金沢大学 / 九州工業大学大学院 / 京都大学 / グローバルインディアンインターナショナルスクール / サイボウズ・ラボ / 産業技術総合研究所 / 島根大学 / 東京大学 / 東京電機大学 / 東京農工大学 / ビズリーチ / 日立製作所 / プライムスタイル / 本田技研工業 / 三菱電機エンジニアリング / RYODEN ほか
情報科学	本学 / アイシンソフトウェア / アドバンスソフト / イーアイアイ / EIZO / NECプラットフォームズ / ガイオ・テクノロジー / 金沢大学 / 金沢学院大学 / 国立情報学研究所 / 五大開発 / 佐世保工業高等専門学校 / 産業技術総合研究所 / SHER CORPORATION / 住友電気工業 / タイムインターメディア / TIS / DataLabs / 東京工業大学 / とめ研究所 / ドワンゴ / 名古屋工業大学 / 名古屋大学 / 日本電気 / 日立製作所 / 三谷産業 / 三菱自動車工業 / UDトラックス / 横浜国立大学 / 楽天グループ / 楽天モバイル / 理化学研究所 / 立命館大学 / レクサー・リサーチ / 早稲田大学 ほか
マテリアルサイエンス	本学 / エスケーエレクトロニクス / NECソリューションイノベータ / 大阪産業技術研究所 / 小野谷機工 / 小矢部精機 / 花王 / 金沢大学 / カネカ / キオクシア / クラレ / グリコ栄養食品 / 慶応義塾大学 / ケーイーエフ / 小島プレス工業 / 国立精神・神経医療研究センター / 産業技術総合研究所 / 三和油化工業 / ジーンケア研究所 / 静岡大学 / シャープ / 信越化学工業 / 信州大学 / 新日本理化学 / 住友大阪セメント / 住友電気工業 / セメダイン / セロテック / ソシオネクスト / ソディック / ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング / 大日精化工業 / タワーパートナーズセミコンダクター / 千葉大学大学院 / 東京エレクトロン / 東京工業大学 / 東芝 / 東芝デバイス&ストレージ / 東北大学 / 徳島文理大学 / トヨタ自動車 / 新潟大学 / 日新イオン機器 / 新田セラチン / 日本デキス / インスツルメンツ / 日本電産 / PFU / 東山フィルム / 日立国際電気 / 日立製作所 / 物質・材料研究機構 / 古河電池 / Helical Fusion / 北海道大学 / マイクロンメモリジャパン / 三菱ケミカル / 山形大学 / 横浜市立大学 / 早稲田大学 ほか
融合科学	大阪公立大学 / santec Holdings / GSユアサ / D4cプレミアム / 東京大学大学院 / 日本電気 / 福田金属箔粉工業 ほか

※名称は当時のもの

組織と財務

組織 2026年7月1日現在



教職員数 2026年5月1日現在

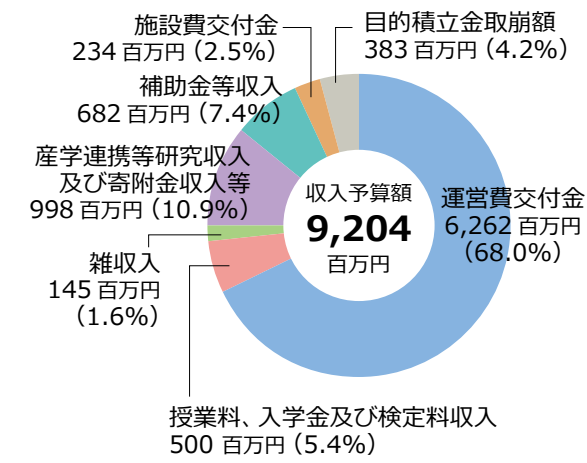
学長	総括理事・理事	監事	教員					事務職員等	合計
			教授	准教授	講師	助教	計		
1	5 1	2	77 2 10	39 5 11	13 5 8	26 3 14	155 15 43	156 73 3	319 89 46

※赤字は女性で内数、青字は外国人で内数を示す。

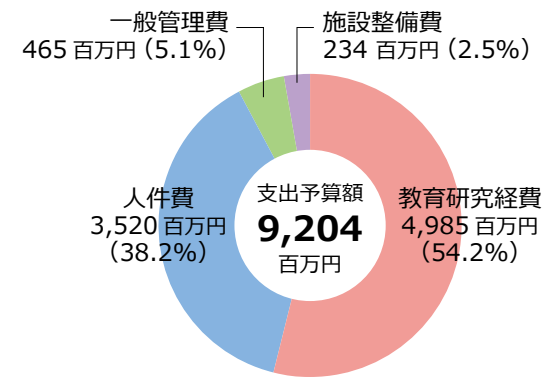
単位：名

財務状況 2026年度収入・支出予算額

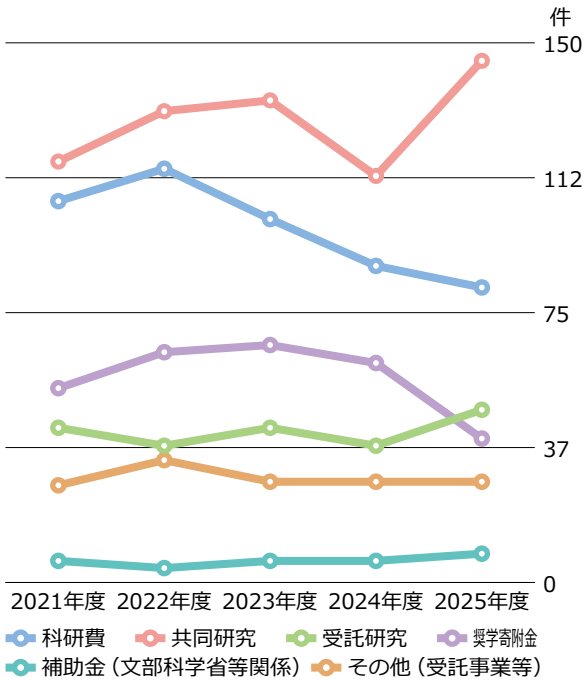
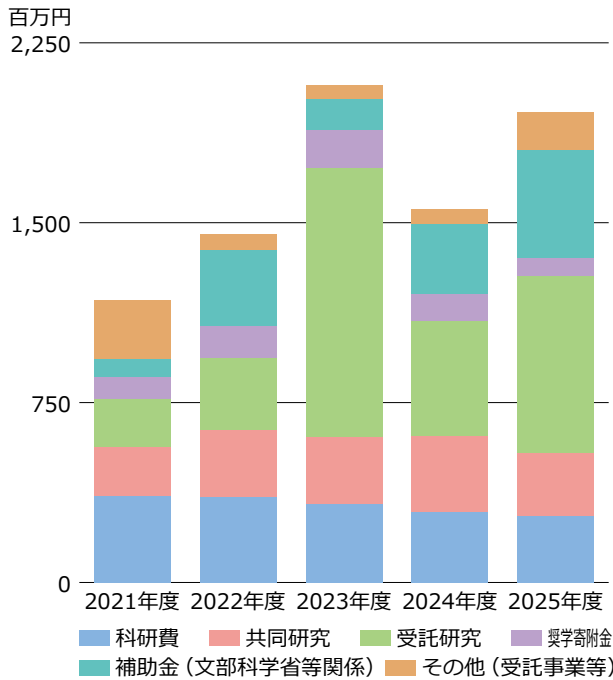
収入



支出



外部資金受入状況 2026年3月31日現在



受入金額 単位：千円

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
科研費	受入金額	361,340	358,840	326,264	293,906	277,156
	件数	106	115	101	88	82
共同研究	受入金額	204,289	278,539	279,925	315,541	261,989
	件数	117	131	134	113	145
受託研究	受入金額	200,755	300,701	1,121,286	481,794	741,492
	件数	43	38	43	38	48
奨学寄附金	受入金額	91,791	130,142	161,018	111,139	75,975
	件数	54	64	66	61	40
補助金 (文部科学省等関係)	受入金額	74,857	317,560	129,958	296,564	450,578
	件数	6	4	6	6	8
その他 (受託事業等)	受入金額	246,219	67,860	58,248	60,335	157,938
	件数	27	34	28	28	28
計	受入金額	1,179,251	1,453,642	2,076,699	1,559,279	1,965,128
	件数	353	386	378	334	351

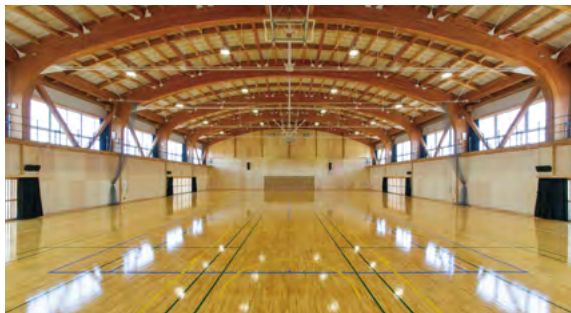
キャンパスマップ



- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| ① 正門 | ⑨ 産学官連携棟 |
| ② 本部棟 | ⑩ 売店、トレーニングルーム |
| ③ 大学会館(食堂) | ⑪ 学生寄宿舍 |
| ④ 附属図書館 | ⑫ 体育館 |
| ⑤ JAISTギャラリー | ⑬ JAIST国際セミナーハウス |
| ⑥ 知識科学棟
保健管理センター | ⑭ 職員宿舎 |
| ⑦ 情報科学棟
情報基盤センター | ⑮ JAISTイノベーションプラザ |
| ⑧ マテリアルサイエンス棟
ナノマテリアルテクノロジーセンター | ⑯ JAIST Shuttle(小松線)バス乗降場 |
| | ⑰ JAIST Shuttle(鶴来線)バス乗降場 |
| | ⑱ 来客用駐車場 |

体育館

木材の温かみのある体育館は、地域との交流の場として活用するほか、地域の指定避難所としての機能も有しています。



JAIST国際セミナーハウス

本学にお越しになる方に利用いただける宿泊施設です。

キャンパス内に位置しているため、本学の各施設へのアクセスも良く、各居室には、キッチンやユニットバスが備え付けられているため、快適な滞在期間をお過ごしいただけます。



JAISTイノベーションプラザ

本学の隣接地に、産学官連携と地域貢献の拠点とすることを目的にイノベーションプラザを設けています。



北陸先端科学技術大学院大学支援財団 (石川ハイテク交流センター内)

本学における教育研究や共同研究の助成、産学官の連携・協力の推進などを目的に、石川県や北陸の経済界を中心として、1990年8月に「財団法人北陸先端科学技術大学院大学支援財団」(2011年4月に公益財団法人へ移行)が設立されました。同財団では、基本財産の運用益により、教育研究活動、共同研究の推進及び奨学資金助成に対する支援事業等が行われています。

いしかわサイエンスパーク(ISP)

ISP(いしかわサイエンスパーク)は、産学官の連携を強化し、国際的な研究開発拠点を目指して、1990年に辰口町(現・能美市旭台)の丘陵地域に整備されました。本学を中核に、研究開発や産業支援施設が集積し、グローバル化や技術革新が進む社会に対応する高度な科学技術研究開発の一翼を担っています。

2002年4月に、公益財団法人石川県産業創出支援機構(ISICO)によりISPの総合窓口としてサイエンスパークオフィスが開設されました。



サイエンスパークオフィス
(石川ハイテク交流センター内)

東京サテライト

JR品川駅から徒歩3分という好立地に東京サテライトを設けています。社会人学生の教育・研究の拠点であるとともに、公開セミナー・研究会開催などの情報発信、共同研究、産学連携の場になっています。



金沢駅前オフィス

本学では、産学官連携の強化の一環として、金沢駅前にオフィスを設けており、セミナーやスタートアップ関連業務などに幅広く利用されています。



公式マスコットキャラクター ジャイレオン



名 前	ジャイレオン
誕 生 日	10月1日 (10月1日の創立記念日は休日のため、 大学が静かでみんなにお祝いしてもらえず寂しがっている。)
性 別	両性類(爬虫類だけど・・・)
チャームポイント	背中の模様(JAISTロゴのJ)
趣 味	JAISTとその周辺の散策
特 技	お得意の七変化 (気分で色が変わることも・・・??)

JAIST Shuttle

最寄り駅との間に本学が運行している無料シャトルバスです。

小松駅から本学までは予約制「JAIST Shuttle小松線」、北陸鉄道鶴来駅から本学までは、予約なしで乗車可能な「JAIST Shuttle 鶴来線」を運行しています。



大学歌

建学の精神や理想を表し、大学の一員であるという自覚を高めることを目的として2018年3月に制定しました。本学修了生の宮下芳明氏により作詞作曲されました。

北陸先端科学技術大学院大学 大学歌

作詞・作曲 宮下芳明



霊峰白山に守られて
 学府の理想を追い求む
 進取の気性で世界に灯をともし
 北陸先端科学技術大学院大学
 日本の荒濤を見下ろして
 時代の変化を感じとる
 未踏の地にゆく船の帆を上げよ
 北陸先端科学技術大学院大学

JAIST 基金

2010年4月に、本学における教育研究を充実・発展させることを目的とした「JAIST基金」を創設しました。

JAIST基金には、教育研究及び学生の修学への支援を一層充実させるため、「教育研究支援基金」と「修学支援基金」という2つの基金を設けています。

「教育研究支援基金」は、教育研究推進、社会貢献、国際交流等の事業に充当する目的の寄附を受け入れ、「修学支援基金」は、経済的理由により修学が困難な学生を支援する事業に充当する目的の寄附を受け入れています。

皆さまの応援をよろしくお願いします。



JAIST古本基金

古本基金でのご寄附は、「教育研究支援基金」として活用します。ご自宅まで宅配業者が集荷に伺います。

専用フォームからのお申込みはこちらから



JAIST 同窓会

同窓会は、修了生同士の親睦を厚くし、併せて本学の発展に協力することを目的としています。

主な活動

▶同窓会総会

- ・活躍する修了生の講演
- ・懇親会

▶研究室同窓会等への支援

- ・名札の貸し出しなど

▶修了生名簿の管理

- ・同窓会Webにて随時入力更新可能なシステムを構築

▶同窓会SNSでの情報発信

- ・同窓会Facebookにて大学や同窓会の活動を発信

▶在学生への支援

- ・学位記授与式時、博士後期課程修了生にアカデミックガウンを貸出
- ・修了生有志がキャリアメンターとして就職・キャリア等について助言



同窓会への参加は、Webから登録ください。

セキュリティと修了生の利便性に配慮し、大学及び同窓会からのお知らせは、同窓会Webにご登録の「転送先メールアドレス」宛にお送りしますので、常に最新の情報へ更新をお願いします。



WEBコンテンツの紹介



JAIST変人ラジオ

越前屋俵太氏をナビゲーターにお迎えし、本学で研究する変人(時代を変えていく人)たちの研究や人柄に触れられるラジオ番組です。



JAISTとあなたの未来を創造(想像)していくメディアサイト

研究室の魅力等について在学生がホンを語ります。

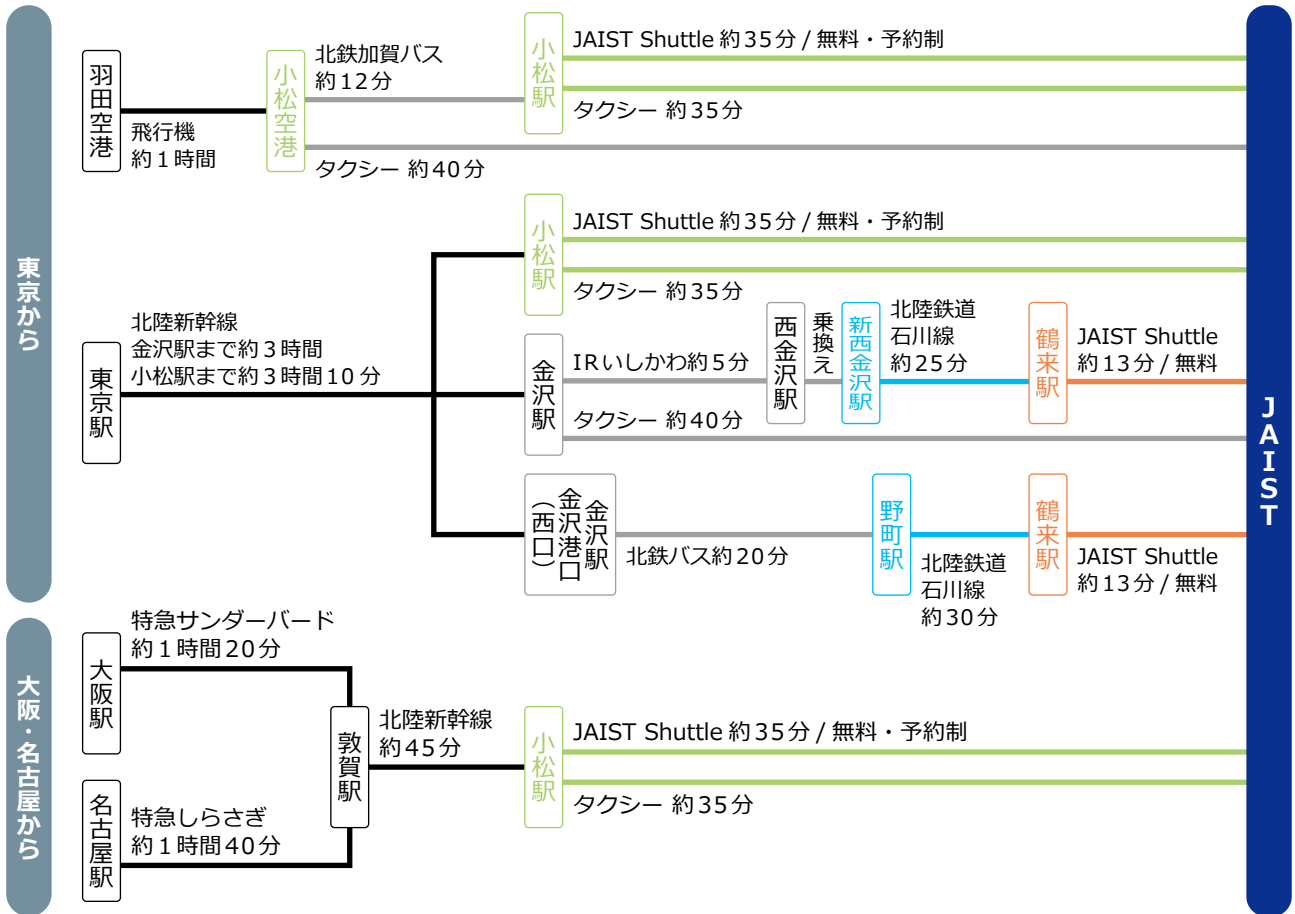


この人に聞く

研究者にスポットライトをあて、図や写真をまじえて、研究内容をできる限りわかりやすく紹介しています。



交通アクセス



発行 2026年7月発行 北陸先端科学技術大学院大学 広報・学生獲得推進室

〒923-1292 石川県能美市旭台1-1
TEL 0761-51-1111(代表)
E-mail kouhou@ml.jaist.ac.jp

JAIST

検索



大学
webサイト



デジタル
広報誌



公式
facebook



公式
YouTube



- 小松駅から本学までの間には連絡バス「JAIST Shuttle」(小松線)(無料・予約制)が運行しています。
- 北陸鉄道鶴来駅から本学までの間には連絡バス「JAIST Shuttle」(鶴来線)(無料)が運行しています。

